

中野区立桃園第二小学校 同窓会通信

—第21号—



「桃二小・同窓会通信」について

同窓会会長 矢島寛典(三七期)

「同窓会通信第21号」の発行に当たり、先ずは皆様からの平素の同窓会に対する温かいご支援に感謝申し上げます。

さて母校は、桜満開の4月8日、新たに着任された山田研二校長のもと、66名の可愛い新入生を迎え、開校103年目となる令和6年度がスタートしました。

そして同窓会も、会員の減少、活動家及び活動資金不足等々の諸問題を抱えておりますが、気分一新、元気に新年度の活動を開始いたしました。

この機に改めて同窓会季刊誌「桃二小・同窓会通信」について考えてみたいと思います。3年前の開校100周年記念時に発行され



▲開校103周年を迎えた母校

た「百年史」で大藪元会長は、『同窓会の大事な役割は、会員の皆様に一年に一度は童心に帰り、仄々とした楽しいひと時を過ごして貰うこと』という趣旨のことを仰つておられます。

そして私も全く仰る通りと確信し、その実現手段の一つとして「同窓会通信」の継続発行に努力してまいりました。

しかしながら、諸物価上昇の折、郵送対象を見直し、WEBを活用するなど工夫はしておりますが現在の同窓会財政は、このままでは継続発行が難しい状況となっております。皆様ご存じのように入会金や年会費が無い当会では活動原資は皆

様からのご厚意の協賛金しかございません。

皆様にはこの状況をご賢察下さり、一人でも多くの方々が力添えを下さるようお願い申し上げます。次第でございます。

末筆となりますが会員の皆様の益々のご健勝を祈念申し上げます。



お世話になりました

元校長一五代 山崎義弘

薫風の候 桃園第二小学校同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

このたび、定期異動に伴い、4月1日付けで、中野区立平和の森小学校へ異動することとなりました。桃園第二小学校在職中は、私の学校経営に対し、多大なご支援と温かいご協力をいただきました。私がモットーとする「子どものために」子どもとともに」を合言葉に「保護者・地域の皆様とともに歩む」学校を目指した経営方針をご支持いただき、校長としてとても幸せな5年間を過ごさせていただきました。本当にありがとうございます。心より感謝いたしました。おります。ありがとうございます。

中野区のこととは右も左も分からず他区の副校長から異動してまいりました私に、同窓会長様をはじめとする役員の方々、PTAの方々、おやじの会の方々、町会長様をはじめとする町会の皆様など、地域の多くの方々に、桃園第二小学校と地域の歴史と伝統をお教えいただきました。皆様と一緒に楽しませていただいた、新井薬師公園の「桜まつり」、水川神社の例祭、昭和地区まつりやふれあいコンサート、ファミリィ運動会やグラウンドゴルフ、チャンプルーフェスタなどなど、一つ一つの行事に思い出がたくさん詰つています。

特に、皆様と力を合わせて成し遂げた「開校100周年記念式典・祝賀会」は盛大で大変すばらしいものでした。新型コロナウイルス感染症に対して、打ち克ち、中野区の小学校の歴史に残る周年行事となりました。私が着任する以前から周到に準備されるとともに、新型コロナウイルスなどの問題に対して柔軟かつ創造的に対応されたことが、大成功

につながったと感じています。学校の教職員も知恵を尽くして頑張りましたが、同窓会やPTA、地域の皆様の強い思いがあったからこそ達成できたと確信しています。100周年の年に絶対に実施する、という桃園第二小学校関係者の皆様の強い思いが、困難をしながら受け止め乗り越えた瞬間だったと思います。

4月から異動となりましたが、新しく勤務している平和の森小学校は、中野通りをはさんでお隣の学区域です。中野のお祭りなどには、これからも私は参加したいと思っております。今後も、どこかでお会いする機会がありましたら、お声掛けいただければ幸いに存じます。私も、皆様とあいさつを交わしてまいりたいと思っております。

同窓会「総会」開催のお知らせ

第十回「定例総会」を左記のとおり開催いたします。多くの方々のご参加をお待ち申し上げます。

記

日時 令和六年七月二十一日(日)
午前十時開会 十二時閉会予定
会場 桃園第二小学校体育館棟一階 会議室
議題 会計報告、新役員紹介。
講演・口演 「都々逸」小野桂之介氏(三十一期)
朗読劇 グループ「パロール」 伊藤陽子氏(三六期)他

進行順は講演・口演、朗読劇、議事です。



QRコードは、周年HPへのリンクです。
(スマホのカメラを向けてみてください。
HPにとびます)



都々逸っていいなあ

小野桂之介(三期)

桃二を卒業して七十一年になります。二つの大学で合わせて五十年間に及んだ教育・研究生活を七十四歳で終え、現在は二つの企業で社外役員を務めるほかは、趣味道楽の日々を楽しんでいます。

私の趣味道楽の中心は、約四十年続けている俳句と十年一寸前に始めた都々逸です。どちらも奥が深いうえ、それぞれで仲間との交流も楽しく、いくら時間があっても足りない毎日です。俳句も都々逸も七五調の短型詩ですが、和歌の流れから生まれ国内だけでもおそらく百万人を超える人々が毎日取り組み最近では海外でもファンが増えていく俳句に比べ、民謡を源流として江戸時代に生まれた都々逸は、今、創る人も読む人も唄う人も少なくなり、メディアからもほぼ姿を消し絶滅危惧種の状態にあります。

う、他の短型詩にない特徴があります。始めて十年、そうした貴重な存在である都々逸が日本の文化から消えてしまいうような状態にすることを残念に思い、微力ながら残る余生をその下支えに投じようと決心しました。



▲都々逸弾き唄い

まずは、都々逸とりわけ現代都々逸の面白さを世の人に紹介する本を出そうと思いい立ち、所属する創作集団(しぐれ吟社)の先輩・仲間の作品からこれはというものを約七百五十点選び内容(主題)ごとに分類し流れに沿って解説を加えながら紹介するという形で『都々逸っていいなあ』という本にまとめ、二〇二一年十月に角川書店から出版しました。出してみるとこの本がそこそこ好評で、二年半後の現在四刷りまで来ています。

日本図書館協会からも三百五十冊というまとまった注文を頂き、全国の主だった図書館には一冊ずつ

つ配置されたようで、昨年一月には、江戸川区立図書館から「あの本の内容を紹介するミニ講演をやって欲しい」という依頼が寄せられ、それならと一歩踏み込み、三十分ほどの解説講演に(少し前から秘かに練習していた)三味線弾唄いを加えて演じさせてもらいました。この場にアシスタントとして連れていった娘がこの弾唄いをスマホに録音してくれ「これ、ユーチューブにアップしたら?」と思いがけない提案。ほんの十分かそこらで私が都々逸弾唄いを披露するチャンネルが立ち上がりました。

その後、それならと月に一々二本のペースでテーマごとの短編動画を自撮りで作り、現在二十一本になりました。すると、今度はこれを見た知人・友人から「あれを我々の集まりでやってくれない?」という話がぼつぼつ舞い込むようになり、この一年余に十回を超えるミニ講演+弾唄いを演らせてもらいました。(実は、この

七月二十一日、母校桃二でも、同窓会総会にお集まりの皆さんにミニ講演と都々逸弾唄いを聴いていただくことになっています。)そうした流れの延長線上で、今年の一(三月には川崎市のカルチャー

スクール(カルッツ川崎)で九十分×六回の都々逸入門講座を担当することに、先日その最終回

を(好評の内)?)終えたところ

というふうな具合で、八十歳の太台に乗ってから思い立って出した本がきつかけで、尻取り的にいろいろなことが生まれ、若い頃から心の隅に仕舞っていた「芸人の真似事」をそこそこ元気に楽しんでいきます。振り返ってみると、若い頃は、仕事を中心にそれなりにやりがいがあったけれど「やらなければならぬこと」ばかりやってきました。それに比べて「やりたいこと」だけやれている八十路の今は人生で一番楽しい気がします。この楽しい生活をできるだけ長く続けられるよう、遅まきながら食事・運動・睡眠といった健康管理にも努めている今日この頃です。最後に、いま一緒に都々逸創作を楽しんでいる中学時代からの親友(大橋仙太郎くん)の都々逸作品を一つ。

「元氣いっぱい耳だけ遠いあ



思い出の恩師

太刀川正樹(三七期)

私は昭和21年(1946年)生まれの成年。桃二時代には「イチ」のあだ名がついていました。しかしこのあだ名のせいでいじめられたという記憶はありません。自分の性格を分析すると、「おつちよこちよい」で「慌て者」だったようです。学級委員をやったり、卒業式で答辞を読んだりしましたが、「なんで私が?」という思いがしています。

桃二で思い出に残る先生は多いですが、なかでも6年3組担任の寺島士郎先生は忘れられません。背が高く、廊下で我々に話をするときにも口元に手のひらをあてていた光景を思い出します。恐らくタバコの匂いを生徒に悟らせないためだったのではないのでしょうか。寺島先生には「思ったことを(責任をもって)自由にやれ」と言われた記憶があります。その後、寺島先生のような教師になりたいと思ひ、教職を目指したが、残念ながら挫折しました。

当時の世相を振り返ると、中野駅北口広場に設置された街頭テレビで力道山が空手チョップで外人レスラーをバツバツと倒す場面を熱心にみた記憶もあります。

桃二の同級生で魚清という魚屋の息子がいました。自宅にテレビが入ったというので、近所に住む同級生の大月浩司君らと共に招いてもらい、プロレスを見まし

た。部屋を暗くして、同級生の母親が我々に肉まんを一つずつ配ってくれて、頬張りながら空手チョップをみた思ひ出も懐かしい。

桃二を卒業後、中野九中や都立高校(大泉)、早稲田大学に進学しましたが、「おつちよこちよい」で「慌て者」は直らず、好奇心のままに海外を飛び回りました。当時は小田実の「何でもみてやろう」がベストセラーで、この本を夢中で読み、海外の放浪癖がついたのかも知れません。

1980年代前半から、出版社のニューヨーク特派員となり、二度にわたり合計15年間で、ニューヨークを拠点にして、中東や崩壊直前の東欧各地を回りました。幸運にも85年、英国オックスフォード大学留学後、帰国途中で米国に立ち寄った天皇陛下(当時は皇太子・浩宮殿下)を取材するため、ニューヨークやグランドキャニオンを見学されている殿下の写



▲グランドキャニオンにて

真が手元に残っています。ニューヨークでは2000年代初め、大リーグ(MLB)年間取材記者証を首に下げてはヤンキースやメッツの試合に通いました。松井秀喜選手や新庄剛志選手、松坂大輔投手のプレイを目撃するという幸運にも恵まれました。

当時の取材経験をベースにして生まれたのが昨年(2023年)12月末に刊行した「英語とMLBに100倍強くなる、大谷英語」(飛鳥新社)です。大谷翔平ブームに乗って増刷を重ねるといふ幸運にも恵まれました。

大谷英語



▲「大谷英語」の表紙

表紙の写真(愛犬デコピンとのツーショット)も野球を知らない愛犬家の読者の間でも評判が高まったことも運がよかったのでしょう。この一冊を「思ったことを自由にやれ」と桃二時代に薫陶いただいた寺島士郎先生の墓前にも送りたいと思います。



元氣なら
阿良木 健(三八期)

「ゴメン。コロナに罹ってしまった。5日間の外出禁止。皆さんによろしく。」

1人減った。会場は、個室、テーブル着席で予約している。幹事泣かせの前日キャンセルの電話である。ほかに出席で返事をくれたメンバーは揃うだろうか。出欠の返信期限は8月末とした。忘れてはいないだろうか。クラス会開催日は、10月20日の平日である。この2ヶ月の間に、出席返信メンバーから2人のキャンセルがあった。想定内の数である。

昭和35年の卒業時は、1クラス55人であった。卒業後は、しばらくすると散り散りになったが、小玉幹事の転居しらべの尽力で28人の現住所を把握している。今回の欠席返信には本人が病気のため、配偶者や親の介護のため、仕事のための中には介護福祉士がいる。欠席理由の表記がない。そもそも促しの電話をしても返信がないメンバーは、自然退会を希望しているのかもしれない。

記念回をコロナのため3年延期したものである。5年おきの開催は、藤野先生のご意向であった。67歳の卒業55年の開催時は、多摩霊園の墓所に奥さまを囲んで集った。ご自宅とは数分の所である。駅伝の選手であったお話。職場結婚であった等のお話があった。今回は、常連のメンバーから7人の欠席。物故は2人であった。S君は長野県別所温泉の自宅から出席し、12名が集った。会場の新橋ライオンは、設定料金で2時間のフリードリンクのパーティー料理。過不足は無く、会計処理に悩むことはなかった。



▲久しぶりの再会に乾杯

コワモテの面影の残る誰それと出会い、貰った名刺にビックリした話。中野では誰それと近所だった話。新幹線通勤の話。持病、大手術の話で盛り上がった。2次会はカラオケ館に移動して話のつづき。途中、ポツリポツリと抜けてゆくメンバーあり、会計の纏め役

には苦勞をかけた。秋元幸子、窪寺茂は、同窓会に協賛金をつづけ、同窓会通信に名前が記載されている。

「楽しかった。5年おきの原則を変更して、77歳、喜寿に開催しよう。」との声。あと2年後だ。



桃二への感謝
大橋秀樹(五二期)

昭和35年生まれなので桃二には42年4月に入学した。担任の先生は竹内博先生(1年)、西本悟郎先生(2年)、山下千代先生(3年)、辻野七重先生(旧姓塚田、4〜6年)だった。すでに記憶があいまいだが、2年生の頃は向か



▲懐かしい担任の先生方

いにあった木造の旧校舎をまだ使っていてストーブも石炭を教室まで運んでいた。給食も凸凹のアルミのお皿やトレイだった。西本先生には4年生向けの「ファープルの伝記」を勧められて、それから色々な偉人の伝記を読むようになり、5年生の時には読書クラブに入り図書室でひたすら動物関連の本を読んでいた。4年生で担任になった塚田先生は大学を出たばかりで僕らが初めて担任する生徒だった（僕らの担任中に結婚され改姓した）。美人なんだけどなかなか怖い先生で、休み時間が終わって教室に戻るのが遅れると、教室の後ろに正座させられてビンタだった。そんなところは今ではニュースになってしまうけど、教育熱心で生徒一人一人のことを本当によく見ている良い先生だった。私も先生が勧めてくれた私立を受験することになり今の自分があると感謝している。



▲塚田先生と懐かしい仲間達

6年生の時は飼育栽培委員会の委員長になり、日曜や元旦も学校に行つて校庭の鳥小屋を毎日掃除していた。うさぎ、鶏、カメ、インコがごちゃ混ぜの小屋で、近所の八百屋に野菜くずをもらいに行つて、鶏が産んだ卵は用務員室に届けてたけどおかずになってたんだろな。6年の時に学年で2チーム作つて「神様と人間」みたいな演劇をやつて、自分は全能の神ゼウスの役をもらったけど、3年の時から好きだった初恋の子と組めなくて残念だった。朝は友達の家へ寄りながら歩いて通学して、放課後は天神、新井葉師、出来たばかりのブロードウェイ、空地での草野球とか良く遊んでたね。2年下に弟も通つてたけど一緒に何かをした記憶がないんだな。

中学は私立に行つたので中野には住んでたけど桃二の友達とはだんだん疎遠になり、一度同窓会があったけど機会があったらまた集まりたいね。まだ実家があるので年に数回は中野をうろついている。SNSのおかげでFace、bookでは同級生数名とつながっているし何かで見かけたら声をかけてほしい。今は埼玉のはずれで動物病院を経営する獣医師になれたけど、昔から生き物好きで桃二の頃の夢は動物園の飼育係になることだった。ゲームや映画のように「あの時ああしていれば

……」って、出会いや選択で違った未来もあったかもしれないけど、あの頃の経験や先生の指導すべてが今の自分につながっていると思う。出会えた先生、友達、桃二にありがとう。



桃二の記憶

柳澤三千代(五六期)

私は、47年前に桃園第二小学校を卒業しました。計算したら、もうそんな前だったのかと驚いています。今回依頼を受けて、桃二の思い出は？と頭に浮かんだのは、運動会でリレーの選手になった事です。今とは想像もつかないくらい私の人生の中で、一番早く走れた瞬間でした。あの時は、クラスの代表だと思つたとドキドキして、並んでいる時、スタートに立った時は、更に緊張していた事を思い出します。走っているときの場面は、何故かスローモーションの記憶です。結果は？記憶にありません。走り終わってホッとしたんでしょうね。

……」って、出会いや選択で違った未来もあったかもしれないけど、あの頃の経験や先生の指導すべてが今の自分につながっていると思う。出会えた先生、友達、桃二にありがとう。

リレーは、一人の力でなく数人の力があつて勝敗が決まるものです。バトンを渡す連携も大事な事で、練習を重ねていく中で、その成果も出るものだと思います。この時はこんなことを考えもしなかったのですが、運動会を通して同級生と力を合わせていく経験を持てるようになっていたんですね。



遠くでも大好きな桃二小

清水蘭(七〇期・旧姓・和田)

子供頃の私は視野も狭く交友関係も限られたぼんやりした子供だった為、余り小学校での記憶が残っていません。ただ、桃二小の学区で一番端に住んでいたということもあり身体の小さかった私にとって学校に通うのがとても大変だったという記憶が残っています。学校が遠かった事と習い事も沢山していたもので放課後の校庭開放や地域イベントの参加、児童館にすら行った事が殆ど無い幼少期を過ごしました。

現在、我が子が桃二小へ通つて



▲開校70周年記念航空写真